

会員の皆様へ

令和6年7月18日
赤塚番匠免町会
会長



「日赤募金」の御礼

梅雨明けと同時に夏本番の日射しと暑さが続いております。皆様にはいかがお過ごしでしょうか。熱中症警戒アラートが連日発表され、救急車ひっ迫アラート(注1)も発表されております。十分な水分補給と冷房の適切な使用で健康におすごしくudasaimasyouようお願いいたします。

注1・・・救急要請が急激に増加すると、救急隊(人員、救急車)が足りなくなり要請に応えられなくなる状況も生じます。このような救急出場体制のひっ迫度合いを伝え、真に救急車を必要とする方のために救急車の適時・適切な利用を強く訴えかけることを目的とします。
救急車の利用判断に迷う場合や受診医療機関がわからない場合は、「#7119」(東京消防庁救急相談センター)をご活用ください

さて、先般お願いいたしました「日赤募金」につきましては、大変多くの方々にご賛同をいただき、募金活動を円滑に進めることができました。

募金総額は91,993円でした。板橋区宛納金いたしましたのでご報告申し上げます。

皆様からお預かりした募金は、板橋区を通じて日本赤十字社へ届けられ、国内での災害時に必要とされる救護の訓練や物資の整備、人材の育成、そして災害時の素早い救護活動、さらに世界中の苦しむ人々への救援活動に活用されます。

令和6年能登半島地震で被害を受けた方々に対しては、地震直後の救援活動だけでなく、ハンドケアや足湯のリラクゼーション(5月)、仮設住宅での熱中症セミナー(6月)など、被災者に向けた支援活動が継続されています。

また、5月9日に患者の受け入れを開始したイスラエル・ガザ人道危機におけるガザ南部ラファの野外病院(注2)の運営や5月24日に発生し2000人以上が生き埋めになったとされるパプアニューギニアの地滑り災害への支援など国際活動への協力も行っています。

注2・・・野外病院は日本やオーストラリア、香港など12の国や地域の赤十字社によって運営されています

募金にご協力いただいた皆様はじめ募金箱を持って各家庭を回ってくださった班長さん方、とりまとめくださった部長さん方にあらためて御礼申し上げます。